

2026 年 7 月 16 日
住友電装株式会社

住友電装グループ「2030 ビジョン 中期経営計画 2028」の策定について

住友電装株式会社（本社：三重県四日市市、社長：漆畑 憲一、以下 当社）は、2030 年度を最終年度とする長期ビジョン「住友電装グループ 2030 ビジョン（30V）」の実現に向けた 2 期目の中期経営計画として、「中期経営計画 2028（28M）」を策定しましたので、お知らせいたします。

1. 基本方針

当社グループは、連綿と引き継がれる「住友事業精神」とグループの「経営理念」を堅持し、「事業を通じて公益に資する」という経営哲学のもと、常に公益を重視し、ステークホルダーの皆様との共栄を図っていくことを、基本思想としています。

この基本思想のもと、当社グループがこれまで培ってきた理念や技術の柱を堅持し、これらを今後のさらなる挑戦の礎とすべく、2024 年 1 月に存在価値（パーパス）を経営理念に据え、その考え方を 28M においても継承しています。

当社グループは、この経営理念を不変の軸としながら、25M での取り組みをさらに発展させ、30V 達成に向けて一段とスピードを上げて挑戦を加速してまいります。モビリティ市場の大変革期におけるグローバルな事業機会を確実に捉え、グループの総合力で成長戦略を推進するとともに、経営基盤の強化に取り組み、モビリティ社会全体の発展をパートナーとして支え、快適で安全な社会の実現に貢献していきます。

<存在価値（パーパス）>

ハーネス技術を深化させ、“モビリティ社会のなくてはならないパートナー”であり続ける

2. 事業戦略

存在価値（パーパス）を具現化するための通過点である 2030 年度における「めざす姿」として、①モビリティの技術変革、②社会、③顧客からの 3 つの期待・要請に応えるべく、ものづくり・人づくりを追求し、期待を越えるソリューションを提案することで、可能性を実現へ変えていく挑戦を続けていきます。

28M では、25M で掲げた方向性を継承し、基盤事業（従来のワイヤーハーネス）の深化、新規事業（次世代モビリティを支える電動化や高速通信化に寄与する独自製品・技術の開発）の深化を一層進め、三位一体*体制のさらなる融合と、グローバル 25 万人の多様な人材の育成・活用を通じて、30V の実現をより確かなものとしてまいります。

*三位一体…1995 年に研究開発の一層強化を目的に、住友電気工業（株）と住友電装の合併で（株）ハーネス総合技術研究所（現・（株）オートネットワーク技術研究所）を設立し、三位一体の体制を確立。

「2030 ビジョン 中期経営計画 2028」

URL：<https://www.sws.co.jp/corporation/strategy.html>

以 上